

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330157

研究課題名（和文）偏光フィルタ映像提示トリックを活用した目撃記憶変容の実験的研究

研究課題名（英文）Experimental Research on Eyewitness Memory Distortion Using a Presentation Trick

研究代表者

守 一雄 (MORI KAZUO)

東京農工大学・大学院共生科学技術研究院・教授

研究者番号：30157854

研究代表者の専門分野：応用認知心理学

科研費の分科・細目：心理学・実験心理学

キーワード：目撃記憶、記憶変容、同調、映像提示トリック

### 1. 研究計画の概要

同じ事件を目撃しても、目撃者間で証言が食い違うことがたびたび生ずる。目撃者が見まちがいをしたり、目撃後に記憶ちがいをしたりすることがあるからである。しかし、実際の目撃者証言においては、どちらが見まちがいや記憶ちがいをしたのかを知ることができない。本研究では、特殊なトリック（MORI テクニック）を用いて、目撃者にあたかも「見まちがい・記憶ちがい」が生じたかのような事態を作り出す。こうした実験により、目撃者の「見まちがい・記憶ちがい」が複数の目撃者間の話し合いによってどのように解決されていくのかを検証することを目的とする。守は過去約10年間の間に、3回の科研費の補助を受け、MORI テクニックの洗練と有効性の検証（萌芽研究：1996-1998）、MORI テクニックを用いた目撃記憶の実験研究（基盤C：2001-2003）、MORI テクニックを用いた目撃記憶研究の国内外での大規模共同研究（基盤B：2004-2007）を行ってきた。2007年からの4年間では、2004年から始まった国内外での共同研究プロジェクトをさらに拡大すること、さらに、これまでに目撃記憶との関連性が見出された種々の要因について、直交表に基づく実験計画を立てることで組織的な大規模実験研究を実施し、要因間の重要度を検証することを目的とする。

### 2. 研究の進捗状況

偏光フィルタを用いることで2種類の異なる映像を被験者に気づかれることなく提示する方法(MORI テクニック; Mori, 2003;

2007)を考案し、複数の目撃者の目撃情報が食い違った状況を実験的に作り出すことで、目撃者間の記憶変容を科学的に検証する手法を開発した。さらに、ニュージーランドのGarryらとの共同研究を通して、目撃記憶研究の新しい実験手法として「Mori-Garry パラダイム」を完成させた(Garry, French, Kinzett, & Mori, 2008)。

MORI テクニックを用いた目撃記憶の変容についての実験研究は、主な目撃記憶に関わる要因のうち、以下の要因について本研究期間内に研究代表者および連携研究者、海外研究協力者によって実験が実施済みである。しかし、各要因間の交互作用はまだ手つかずである。

#### (1)目撃者側の要因

①目撃者の特性：性別（男性性・女性性を含む）②目撃者間の関係性：年齢の違い(親子での実験・幼稚園児での実験)：親密さの違い(親友・恋人)③目撃者の人数（2人・3人・4人）④目撃者の視力認知

#### (2)提示方法等の要因

①映像の明るさ ②映像の種類（実写・アニメ）③話し合いの時期の遅延（直後 vs 1週間後）

#### (3)目撃事態・内容の要因

①犯罪②ストーリーの自然さ

#### (4)実験手続きの要因

①統一報告書作成の有無 ②話し合いの有無 ③話し合い時期の違い（直後・1週間後）④再生方法の違い（再生・再認）⑤被験者間要因 vs. 被験者内要因 ⑥自信度

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

当初の計画通りに目撃記憶に関する実験研究を複数行い、研究成果を12件の査読付き学術論文として公刊した。

当初の計画になかった映像提示トリックの有用性についての実験的評価を実施し、成果を査読付き学術誌に公刊できた。

当初の計画から派生した新しい映像トリックを活用した研究を査読付き学術誌に3件公刊することができた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

ニュージーランドのGarryらとの共同研究を通して、研究手法をより洗練させ、「Mori-Garryパラダイム」として目撃記憶研究の新しい実験パラダイムを構築した(Garry, French, Kinzett, & Mori, 2008)。Mori-Garryパラダイムが2人の目撃者に一方だけの映像だけを提示できていることも実証実験で確認した(French, Gerrie, Garry, & Mori, 2009)。

この新しいMori-Garry実験パラダイムによる目撃記憶研究を国内外で継続的に実施することを計画している。また、新たにオーストラリア、カナダ、イギリス、ロシアの研究者との共同研究に発展しつつあり、その一部はすでに国際学会で発表されている(French, Gerrie, Garry, & Mori, 2009; Azad, Lindsay, & Brimacombe, 2009; Nourkova, 2009; Gabbert & Hope, 2009; Nash, Wade, & Lindsay, 2009; Zarkadi, Stewart, & Wade)。Loftusパラダイムに触発されて大量の実験研究が行われてきたように、今後この新しい実験パラダイムによる実験研究が世界中で広く活用されるようになることが大いに期待できる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### ①〔雑誌論文〕(計15件)

- 1) French, L., Gerrie, M. P., Garry, M., & Mori, K. (2009). Evidence for the efficacy of the MORI technique: Viewers do not notice or implicitly remember details from the alternate movie version. *Behavior Research Methods*, **41**, 1224-1232 査読あり
- 2) Mori, K. & Kitabayashi, M. (2009). How Child-Mother Pairs Reported What They Had Witnessed Together: An Experimental Examination Using the MORI Technique. *Psychology Journal*, **6**, 60-69. 査読あり
- 3) Garry, M., French, L., Kinzett, T., & Mori, K. (2008). Eyewitness memory following discussion: Using the MORI Technique with a Western sample. *Applied*

*Cognitive Psychology*, **22**, 431-439. 査読あり

4) French, L., Garry, M., & Mori, K. (2008). You say tomato? Collaborative remembering leads to more false memories for intimate couples than for strangers. *Memory*, **16**, 262-273. 査読あり

5) Mori, K. & Mori, H. (2008). Conformity among Cowitnesses Sharing Same or Different Information about an Event in Experimental Collaborative Eyewitness Testimony. *Perceptual and Motor Skills*, **106**, 275-290. 査読あり

##### ②〔学会発表〕(計8件)

1) French, L., Garry, M., Gerrie, M., & Mori, K. (2009). Experimental Evidence of the Efficacy of the MORI Technique for Eyewitness Research. The 8th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Kyoto, Japan. (2009年7月27日)

2) Mori, H. & Mori, K. (2008). Conformity among cowitnesses sharing same or different information about an event in experimental collaborative eyewitness testimony. The XXIX International Congress in Psychology, Berlin, Germany. (2008年7月25日)

3) Mori, K. (2007). The MORI Technique: A methodological breakthrough for a variety of psychological research. Cognitive Development and Learning Seminar, School of Psychology, University of Nottingham. (2007年11月27日)

4) French, L., Garry, M., & Mori, K. (2007). Social appraisal and susceptibility to memory distortion. The 7th Bi-annual Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Bates College, Lewiston, Maine, MA. (2007年7月27日)

5) Mori, K. & Kishikawa, T. (2007). Co-witnesses' influence on ear-witness recollection: A misinformation paradigm. The 7th Bi-annual Conference of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, Bates College, Lewiston, Maine, MA. (2007年7月26日)

##### ⑤〔その他〕

ホームページ

<http://www.avis.ne.jp/~uriuri/kaz/profile/self.html>